

2025年度 研究会活動支援制度 研究成果報告書

研究会名: まちらば京都 代表: 言語教育情報研究科 安井就一郎 他5名

研究テーマ: 多文化共生 (外国人と地域住民の相互理解を深め共に暮らしてゆける共生策の探究)

活動内容 : 日本の文化の実体験と地域住民との交流。左記を踏まえた会合を実施 (月2回程度)

●華道体験

草月流織田らんすい先生にご指導いただき草月流いけばなを体験。

しん・そえ・ひかえ, の基本形を座学で学んだ後, 実際にいけばなに挑戦。思った以上に集中力が必要。また体験者それぞれの性格が作品にあらわれることに驚きと関心を持った。華道の精神も教授いただいた。

●茶道体験

藪内流家元にご指導いただき, 基本的な動作, 作法を学ぶ。

相手を敬う「道」としてのお茶会を体験。凛とした空気の中, 心地の良い緊張感を覚える。

日本人の精神, 親しき仲にも礼儀がある旨を学ぶ。

●清水焼体験

陶芸の基本的な動作, 作法を学ぶ。

思ったよりも集中力と丁寧さが必要。面倒くささからず, また相手を慮って動作することを学ぶ。

●地蔵盆体験

北区の町内会地蔵盆のお手伝い。

子どもや地蔵様を敬うことの尊さ, 人への思いやりを学ぶ。

地域住民との交流により国籍問わず勇気をもってコミュニケーションをとれば親近感を抱くことができることを実感した。

●商店街人気のパン屋さんオーナーにインタビュー。

急速に増加する外国人観光客やオーバーツーリズムへの思い。近隣外国人留学生との関係。

外国人との共生について思うことをインタビュー。市井の人々はマスコミで話題になるような拒否感はないことがわかった。

●区民運動会への参加

ペットボトルを倒すボーリングゲームや玉入れ, 綱引きなどを体験。

海外にはない日本独自のユニークな文化を体験。近年, 会社での運動会も復活してきおり, 日本人が得意とする団結感が増す手段として効果が高い。これまで日本企業が得意としてきたこと, 日本人が得意とするチームワーク強化, 一体感を得る楽しさを経験できた。

【研究成果と今後の課題】

立命館大学言語教育情報研究科および国際関係学科の日本人学生および外国人留学生とともに, 日本の伝統文化や地域住民との触れ合いの機会をつくり, 日本文化や日本人の思考傾向の背景にあるものを学び, 今後の日本国内における多文化共生策についてのヒントを得ることを目標に会合やイベントを企画。華道, 茶道, 弓道, 陶芸の他, 地蔵盆のお手伝いや地域商店街の店主へのインタビュー, 区民運動会への参加など。「実務」「実体験」「リアル」をキーワードに活動。単なるアクティビティではなく伝統文化「道」を学び日本人の精神的支柱を体験。また地蔵盆という京都を中心とする関西ならではの独自の文化と子供やお地蔵さんを敬う精神を学んだ。そして地域商店街の人気のパン屋さんのオーナーのお話を聞くことにより, 近年増加する外国人観光客および外国人居住者への思いなどを聞くことができた。昨今のような外国人への抵抗感がないことがわかりこれからの共生策へのヒントとなると感じた。また運動会で地域住民とともに汗を流すことにより親近感と連帯感が生まれ双方ともに貴重な体験となった。京都の一般的な町内においてまた日本人地域住民にとって外国人居住者との交流機会はまだまだ少なく, 相互理解へと発展する機会がないことが課題として浮かび上がってきた。

今後も今回経験したことを深堀し, また近隣地域住民との親交もますます深めていくことを旨として活動してゆきたい。今後この活動をまとめポスターセッションへの参加も検討。

研究成果詳細レポートはInstagramで公表

<https://www.instagram.com/machilabokyo/>

